

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：20102

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H04521

研究課題名(和文)シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究：従属節の構造と節連結を中心に

研究課題名(英文)Typological study of syntactic structures in Siberian languages: Focusing on subordinate clauses and clause linking

研究代表者

永山 ゆかり (Nagayama, Yukari)

釧路公立大学・経済学部・准教授

研究者番号：20419211

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では古アジア諸語チュクチ・カムチャッカ語族のアリュートル語・コリヤーク語・イテリメン語、系統不明の言語であるコリマ・ユカギール語、およびサモエード諸語のセリクープ語の5つの言語を対象とし、(1)言語資料の収集、データの整理・分析、(2)基本的な統語構造の記述と統語情報アノテーション付与の方法論に関する研究、(3)資料集積と共有のための国際的なネットワーク構築、(4)言語資料の公開に取り組んだ。研究成果として学術論文8件、学会発表19件、書籍5件を発表し、国際シンポジウムを2度開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シベリア地域における消滅の危機に瀕した言語につき、現地調査により新たな言語資料を収集し、またアーカイブ調査により20世紀半ばに記録された未刊行資料を発見、データベース化した。この地域の言語の通時的研究や方言研究、またこの地域の言語の比較研究を進展させるために大きく貢献できた。統語構造に関しては、チュクチ・カムチャッカ諸語との系統関係に疑問が持たれているイテリメン語の統語構造がアリュートル語の統語構造と強い類似性を示すことを明らかにし、この地域の言語の系統関係や言語接触の研究に大きく貢献した。言語資料はロシア語訳を付して刊行し、現地コミュニティに研究成果を還元することができた。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to conduct typological study of syntactic structures in five Siberian languages: Alutor, Koryak, Itelmen of Chukchi-Kamchatkan languages, Kolyma Yukaghir (isolate), and Selkup of Samoedic languages. Members of this project collected video and audio data of Alutor and Itelmen, supplemented text database, analyzed and annotated language data. We organized two international symposia and developed international collaboration with researchers from Russia, USA and Germany. As a result of this project, we published 8 academic papers and five books, and gave 19 oral presentations in various academic meetings including international conferences.

研究分野：言語学

キーワード：記述言語学 古アジア諸語 チュクチ・カムチャッカ諸語 サモエード諸語 危機言語 統語論 統語情報 コーパス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする古アジア諸語ならびにサモエド諸語の分布するシベリア地域は、新旧両大陸をつなぐ重要な位置をしめており、言語類型論の研究においては早くから注目されている地域である。しかし、いずれの言語も歴史的・地理的な事情から記述研究が著しく遅れている。ロシアの研究者により近代的な学術研究が開始されたのは20世紀初頭であり、その後1960年代から70年代にかけて一時的に研究の盛り上がりを見せたものの、継続した研究は困難であった。1990年代以降は日本人研究者が中心となり、現在に至るまで継続して記述研究を進めてきた。

これらの言語はいずれも語幹合成や接辞法を多用する複雑な形態法を持つため、これまでの記述研究の大部分は形態論研究に向けられてきた。統語法についてはきわめて簡略な記述があるのみで、基本的な統語構造についての体系的かつ詳細な調査はまだ十分に行なわれていないという状況である。さらに、これらの言語を書き言葉として日常的に使う習慣がないため資料の蓄積が圧倒的に少ないという問題もある。いずれの言語も母語話者数は数十人から100人程度と推定され、民族人口に対する母語話者の割合は10%にも満たない、消滅の危機に瀕した言語であることを考えると、本研究のめざす統語構造の研究は緊急の課題である。

代表者と分担者2名はいずれも、それぞれが専門とするシベリア少数言語の記述研究を行ってきた国内の第一人者であり、科研費等の競争的資金により研究計画を実施し、成果を公開してきた。調査研究開始当初は音韻論や形態論の調査を中心に研究を行ってきたが、とくに過去5年間は統語構造に着目し、所有構造、非定形動詞、否定文、名詞項標示、関係節、名詞化などといった統語論中の個別のテーマについて一定の研究成果をあげてきた。

しかし、上述のとおり、シベリア少数言語の統語研究は近年ようやく始まったばかりであり、基本的な統語論の調査が行なわれているといえるのはきわめて限られた言語にすぎない。したがって、個々の言語の文法研究にとっちはいうまでもなく、シベリア圏における地域的な特徴を考える上でも、言語類型論的な観点から基本的な統語構造を明らかにすることが急がれている。とくに、複雑な形態法を持つ言語の統語研究においては、伝統的な印欧語文法の枠組みではなく、さまざまな文法機能をどのように表わしうるかという新たな視点からのアプローチが必要である。また年々話者数が減少し、言語衰退が深刻な問題となっているシベリア少数言語の現状をふまえると、新たなテキスト資料の集積と分析ならびにその共有のための方法論研究を進めることは緊急の課題である。さらに、こうした研究は日本国内の研究者のみで達成するのは困難であり、各言語の学術研究と平行して言語保存活動に携わってきたロシアの研究者ならびに言語調査や資料の刊行を継続して行なってきたヨーロッパの研究者との協力体制を構築した上で研究を推進し、成果を公開していくことが必要である。

2. 研究の目的

本研究は、古アジア諸語チュクチ・カムチャッカ語族のアリュートル語・コリヤーク語・イテリメン語、系統不明の言語であるコリマ・ユカギール語、およびサモエド諸語のセリクープ語の5つの言語を対象とし、(1) シベリア少数言語の基本的な統語構造の記述、(2) 統語情報アノテーションの付与に関する方法論の研究、(3) 国際的ネットワークをベースとした言語資料の分析・共有・公開に関する議論を通じて、シベリア諸言語の統語法に関する通言語的研究を進め、この地域の地域類型論の深化に貢献することをめざした。

3. 研究の方法

本研究では研究目的を達成するために以下のような研究活動を遂行した。

(1) 現地調査、文献調査、既存のデータの整理と分析

統語構造の研究に不可欠であるテキスト資料を蓄積するために、新たな自然発話の資料ならびに個人宅や博物館に収蔵されている未公開資料を収集した。永山ゆかり(研究代表者)はロシア連邦カムチャッカ地方においてアリュートル語の現地調査を実施した。また、これに加えてサント・ペテルブルグ市において19世紀末から20世紀半ばに記録されたアリュートル語およびコリヤーク語の文献資料の調査を実施した。長崎郁(研究分担者)はロシア連邦トムスク州においてセリクープ語の現地調査を実施した。小野智香子(研究分担者)はロシア連邦カムチャッカ地方においてイテリメン語の現地調査を実施した。それぞれの現地調査においては、文法調査並びに新たな資料の収集、既存データの分析などを行った。収集した言語資料は順次データベース化し、データベース化の終了した資料には統語構造の分析に必要な統語情報アノテーションを付与した。

(2) 統語情報アノテーション付与の方法論に関する研究

研究会・ワークショップを開催し、それぞれのメンバーが研究対象としている言語の統語構造に関する報告と意見交換を行った。ワークショップにおいては言語資料への統語情報アノテーション付与の方法について、ユカギール語研究においてすでに一定の成果をあげている長崎郁の主導により各メンバーが分析を行い、討議を重ねた。

(3) 資料集積と共有のための国際的なネットワーク構築

少数言語の資料は、その言語の話し手が属するコミュニティには共有されにくい。したがって、日本と海外の研究者が共同して、よりよい公開方法とデータ集積の方法を研究するためにメンバーによる国際学会への参加や、国際シンポジウム開催により、国際的な研究者間のネットワークを構築した。

(4) 語彙集あるいはテキスト集などの言語資料の公開

収集・分析の終了した資料はロシア語訳を付して刊行し、現地コミュニティに配布することで、研究成果を社会に還元した。

4. 研究成果

本プロジェクトでは、シベリア地域における消滅の危機に瀕した言語につき、新たな一次資料を収集・蓄積することができた。分析が終了した資料はロシア語訳をつけて、それぞれアリュートル語、セリクープ語、イテリメン語のテキスト集として刊行した。

また、過去に収集された未刊行資料のコピーを作成し、データベース化した。これには1950年代に収集されたアリュートル語カラガ方言、コリヤーク語カーメンスコエ方言など、これまでほとんど研究されておらず、資料の蓄積もない希少な方言の資料も含まれる。また、1920年代に収集されたアリュートル語資料も新たに発見され、コリヤーク語およびアリュートル語の通時的な研究や方言研究、またこの地域の言語の比較研究を進展させるために大きく貢献できた。

統語構造に関しては、チュクチ・カムチャッカ諸語との系統関係に疑問が持たれているイテリメン語の統語構造が、アリュートル語の統語構造と強い類似性を示すことが明らかになり、今後のさらなる研究の発展が期待できる。

また、2018年度と2019年度に国際シンポジウム **International Symposium on Northern Languages and Cultures** を開催した。2018年度のシンポジウムは本研究プロジェクトのほか北海道大学スラブ・ユーラシア研究センタープロジェクト型共同研究「シベリア先住諸民族の言語資料から見た社会と親族」(代表：永山ゆかり)、科研費基盤(B)「『混成言語』から見なおすユーラシアの諸言語：言語接触と言語形成の類型を探る」(代表：藤代節)、アイヌ先住民研究センター「言語アーカイブプロジェクト」(代表：丹菊逸治)との共催、2019年度のシンポジウムは科研費基盤(B)「『混成言語』を通して見るユーラシアの諸言語：言語接触と言語生態」(代表：藤代節)および科研費挑戦的研究(萌芽)「言語の看取りと看取りの言語」(代表：藤代説)との共催とし、国内の研究者に加えロシア・アメリカ合衆国・ドイツのシベリア先住民言語および文化の研究者らを招聘し、シベリア諸言語の記録・保存ならびに言語資料の集積と共有に関して意見交換を行ない、今後も継続して国際協力を行なっていく体制を構築することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Ono, Chikako	4. 巻 -
2. 論文標題 Dokumentatsiia itel'menskogo iazyka - neobkhodimo dlia sokhraneniia i vozrozhdeniia iazyka.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo"	6. 最初と最後の頁 65-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ono, Chikako	4. 巻 -
2. 論文標題 Chto dokumentirovat' dlia vozrozhdeniia itel'menskogo iazyka? Iz opyta polevoi raboty.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo"	6. 最初と最後の頁 81-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nagayama, Yukari	4. 巻 -
2. 論文標題 Otrazhenie mezhetnicheskikh kontaktov v aliutorskom fol'klore	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the III International Conferenc "Fol'klor paleoaziatskikh narodov"	6. 最初と最後の頁 124-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 永山ゆかり	4. 巻 -
2. 論文標題 「カムチャッカの先住民文化を受け継ぐ人々」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『アジアとしてのシベリア：ロシアの中のシベリア先住民世界』（アジア遊学 227）	6. 最初と最後の頁 252-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永山ゆかり	4. 巻 -
2. 論文標題 「カムチャッカ北部の先住民言語地名」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『第33回北方民族文化シンポジウム網走報告書 環北太平洋地域の伝統と文化 3 カムチャツカ半島・千島列島』北方文化振興協会	6. 最初と最後の頁 33-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野智香子	4. 巻 -
2. 論文標題 「イテリメン語の類型的特徴 系統か接触か」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『第33回北方民族文化シンポジウム網走報告書 環北太平洋地域の伝統と文化 3 カムチャツカ半島・千島列島』北方文化振興協会	6. 最初と最後の頁 37-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagasaki, Iku	4. 巻 154
2. 論文標題 The focus construction in early modern Kolyma Yukaghir	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Gengo Kenkyu	6. 最初と最後の頁 123-152
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.154.0_123	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野智香子	4. 巻 19
2. 論文標題 イテリメン語テキスト8	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 211-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計19件(うち招待講演 8件/うち国際学会 13件)

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 Opyt polevykh issledovaniy dialektov aliutorskogo i koriakskogo iazykov
3. 学会等名 International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo kraia" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 Problemy izucheniia dialektov koriakskogo i aliutorskogo iazykov
3. 学会等名 International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo kraia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ono, Chikako
2. 発表標題 Dokumentatsiia itel'menskogo iazyka - neobkhodimo dlia sokhraneniia i vrozhdzeniia iazyka.
3. 学会等名 International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo kraia" (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ono, Chikako
2. 発表標題 Chto dokumentirovat' dlia vrozhdzeniia itel'menskogo iazyka? Iz opyta polevoi raboty.
3. 学会等名 International Conference "Sokhranenie i razvitie rodnykh iazykov i kul'tury korennykh malochislennykh narodov Severa, prozhivaiushchikh na territorii Kamchatskogo kraia" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagasaki, Iku
2. 発表標題 A Kolyma Yukaghir Corpus with Morphological and Syntactic Annotation
3. 学会等名 4th International Symposium on Northern Languages and Cultures (Kushiro Public University of Economics) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 永山ゆかり
2. 発表標題 サントペテルブルグのアリュートル語未公開資料
3. 学会等名 日本シベリア学会第4回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 Indigenous Place Names of Northern Kamchatka
3. 学会等名 The 33rd International Abashiri Symposium "Tradition and Culture of North Pacific Rim Area 3 Kamchatka Peninsula and Kuril Islands" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagayama, Yukari
2. 発表標題 Remarks on Alutor Word Order
3. 学会等名 Conference on "Uralic, Altaic, and Paleoasiatic languages in the memory of A.P. Volodin" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ONO, Chikako
2. 発表標題 Typological features of Itelmen and its neighboring languages.
3. 学会等名 NINJAL International Symposium: Approaches to Endangered Languages in Japan and Northeast Asia: Description, Documentation and Revitalization. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野智香子
2. 発表標題 「イテリメンの言語と文化」
3. 学会等名 『シベリアの文化に触れてみる』 鶴見大学比較文化研究所 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chikako, Ono
2. 発表標題 Typological Features of Itelmen Genealogical Relationship or Language Contact?
3. 学会等名 The 33rd International Abashiri Symposium "Tradition and Culture of North Pacific Rim Area 3 Kamchatka Peninsula and Kuril Islands" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ONO, Chikako
2. 発表標題 Izmenenie valentnost' v itel'menskom jazyke.
3. 学会等名 Conference on Uralic, Altaic and Paleo-Asiatic languages in the memory of Alexander P. Volodin. ILI RAS (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長崎郁
2. 発表標題 ユカギールの言語と文化
3. 学会等名 シベリアの文化に触れてみる(鶴見大学比較文化研究所)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagayama Y.
2. 発表標題 Lability of Alutor participles
3. 学会等名 28th Dulzon Readings (The Department of Siberian Indigenous Languages at Tomsk State Pedagogical University (トムスク, ロシア)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagayama Y. and Pronina E. P.
2. 発表標題 Problemy aliutorskogo orfografii.
3. 学会等名 Iazyki malochislennykh narodov Rosii: Ustnoe vs. Pismennoe. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永山ゆかり
2. 発表標題 「アリュートル語の語順」
3. 学会等名 科研費基盤研究(B)「シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究」第1回研究会(北海道大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagasaki Iku
2. 発表標題 Ergativity in Early Modern Kolyma Yukaghir
3. 学会等名 28th Dulzon Readings (The Department of Siberian Indigenous Languages at Tomsk State Pedagogical University (招待講演) (国際学会))
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長崎郁
2. 発表標題 「グロス付きテキストから統語情報付きテキストへ：ユカギール語を例に」
3. 学会等名 科研費基盤研究(B)「シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究」第1回研究会(北海道大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小野智香子
2. 発表標題 「イテリメン語のシンタクス概観」
3. 学会等名 科研費基盤研究(B)「シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究」第1回研究会(北海道大学)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 永山ゆかり・吉田睦(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 『アジアとしてのシベリア：ロシアの中のシベリア先住民世界』(アジア遊学 227)	

1. 著者名 Ono, Chikako (編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 札幌：北海学園大学	5. 総ページ数 125
3. 書名 ITEL'MENSKIE SKAZKI I RASSKAZY IZ SEDANKI-OSEDLOI (Materials of Siberian Languages 6)	

1. 著者名 Nagayama, Yukari	4. 発行年 2020年
2. 出版社 The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) "Typological Study for Syntactic Structures of Indigenous Languages of Siberia"	5. 総ページ数 111
3. 書名 Materials of the Language of Nymylan-Alutor. Volume 2. (Materials of Siberian Languages 7)	

1. 著者名 Nagayama, Yukari, Nutayulgin V. M., Chechulina L. I. (eds)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The working group of the Grant-in-Aid for Scientific Research (B) "Typological Study for Syntactic Structures of Indigenous Languages of Siberia"	5. 総ページ数 138
3. 書名 Nymylan-Russian Dictionary: Alutor dialect. Part 2 (Materials of Siberian Languages 5) [in Russian]	

1. 著者名 Irina Korobejnikova / Natalija Tuchkova and Iku Nagasaki (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 科学研究費補助金基盤研究 (B) 『シベリア少数言語の統語構造に関する類型論的研究：従属節の構造と節連結を中心に』成果報告書	5. 総ページ数 238
3. 書名 Skazki i rasskazy sel'kupki Iriny [セリクーブ語ナリム方言の昔話]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長崎 郁 (NAGASAKI IKU) (70401445)	名古屋大学・人文学研究科・特任講師 (13901)	
研究分担者	國分 智香子(小野智香子) (ONO CHIKAKO) (50466728)	北海学園大学・工学部・准教授 (30107)	